



冬の火災に気をつけよう！

冬は空気が乾燥し、年間を通して火災が発生しやすい季節です。そして、暖房器具は冬の火災原因の代表的なものです。気温が低くなり暖房器具の使用頻度が増え、消し忘れたり、転倒させたり、近くに置いていたものに燃え移るといった理由で火災が増加します。

燃えるものの近くで使用しない

ストーブの上や近くに洗濯物を置いて乾燥しようとすると、火災となるおそれがあるのでやめましょう。また、カーテンや布団、ふすまなどのそばで使用しないようにしましょう。

エアゾール缶などを暖房器具の上やそばに置かない

エアゾール缶などをストーブやファンヒーターなどの暖房器具の上や近くに放置していると、放射熱で過熱され、缶の内圧が上昇して破裂、漏れたガスに引火するおそれがあるので絶対にやめましょう。

寝るときや外出するときには必ず火を消す

布団などが接触して火災となるおそれがあるので、寝るときや外出するときは、暖房器具のスイッチを切る習慣を身につけましょう。電気ストーブ、石油ファンヒーターは、長時間使用しないときには誤ってスイッチが入ることを防ぐためにプラグや電池を抜きましょう。

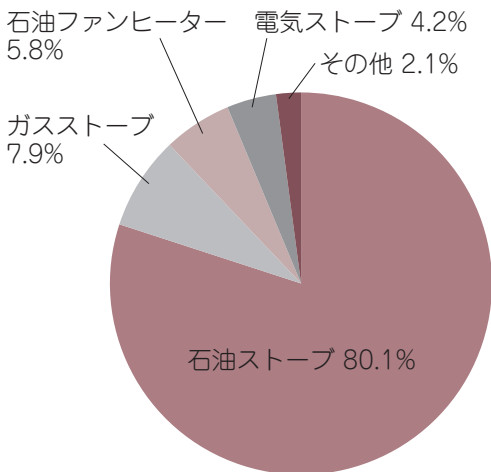
カートリッジタンクの口金は確実に締まったことを確認してからセットする

石油ストーブなどのカートリッジタンクへの給油時は、必ず消火して火が消えたことを確かめてから火気のない場所で給油しましょう。給油後は、カートリッジタンクをひっくり返し、灯油などが漏れないことを確認してからセットしましょう。漏れてしまった油は、よく拭き取りましょう。

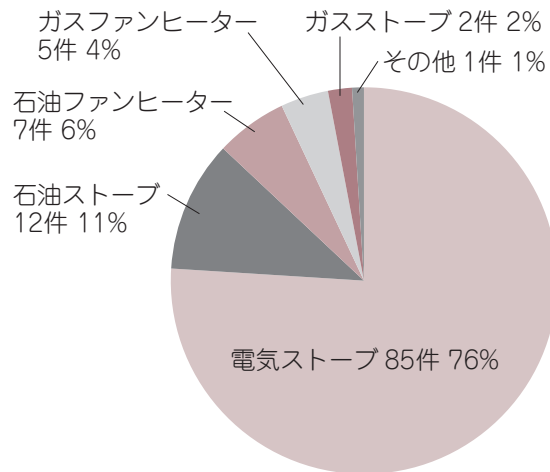
電気ストーブの使用に注意！！

東京消防庁による「最も火災の危険が高いと思うストーブ」について都民に質問したアンケート調査（平成29年実施）の結果、石油ストーブと回答した人が全体の80%以上でした。しかし、東京都のストーブ火災の実態としては、電気ストーブによる火災が最も多く発生しています。この調査結果から、電気ストーブは、火を使わないことから火災になりにくいと感じてしまいがちですが、ストーブ火災の実態と大きく異なっていることが分かります。

火災の危険が高いと思うストーブは？



ストーブ火災の実態



■問い合わせ■ 消防本部 ☎54-0119